

## 令和2年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（京都市立みつば幼稚園）

### 教育目標

夢中になって遊び、心豊かにたくましく生きる力の基礎を培う

～身近な自然に心を寄せる子どもの育成～

### 年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し ・新しい生活の仕方を身につけながら、興味や関心をもったものや身近な自然に心を寄せて遊び、活動しようとする姿が見られた。夢中になって遊ぶ中で、意欲の高まりや真剣に取り組む集中力、問題を解決しようと試みる姿など主体的に活動する姿が見られる。一方、興味をもつものの夢中になるまでに至らない様場合もある。今後も一人一人の幼児理解を丁寧に行い、子どもの心に寄り添った援助を行っていきたい。 ・直接交流が難しい中、地域とのつながりを感じ、親しみを感じることができる活動の工夫を行う。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 ・コロナ禍の中、状況に応じた対策を行いながらの教育活動であったが、新しい生活様式（手洗い・マスクなど）が子どもたちに定着してきている。みつば幼稚園の環境だからこそできたコロナ対策や教育活動を大いに発信し、今後も引き続き、安心安全健康な幼稚園づくりにつとめてほしい。 ・見通しがきかない状況の中、保護者も子育てに不安を感じている。今までと異なる教育活動のことや子どもの育ちを分かりやすく伝えることが安心につながる。今後も園と家庭、地域と一緒に子どもの育ちを支えていきたい。

### 学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和2年10月23日	学校運営協議会みつばの森
最終評価	令和3年 3月 8日	学校運営協議会みつばの森

### （1）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

#### 具体的な取組

- ・子どもが夢中になって遊ぶことができるよう、教師が遊び仲間の一員となり、共に体を動かしたり、遊びを工夫したりする。
- ・登園時、笑顔で挨拶し、気持ちよく子どもを迎える。
- ・子ども一人一人の心の動きに寄り添い、安心感や信頼関係を築く。
- ・教職員で連携し、幼児理解を深め、より良い援助や環境構成を行う。
- ・健康で安全な生活を送ることができるよう、手洗い・うがいなど基本的な生活習慣を身につける。
- ・季節に応じた草花の栽培や小動物の飼育や、園外の自然環境などを取り入れ、子どもが心と体を動かす直接体験を通して、感じる心やいのちを大事に思う気持ちを育てる。
- ・子どものありのままの素直な表現や自己を発揮する姿を受け止め、共感したり認めたりしながら、子どもの自己肯定感を育む。
- ・自分の思いを伝えたり、相手の思いを聞いたりする機会を大切にし、自他の思いの違いを感じたり、葛

藤したりする姿を受け止める。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・週案をもとに、日々の保育の振り返りと子どもの姿の変容をとらえ評価する。(週案の振りり)
- ・園全体での保育の振り返りと評価、事例の検討。

保護者アンケート

- ・子どもは幼稚園に登園することを喜んでいる。
- ・幼稚園で夢中になって遊ぶことは、子どもの育ちにつながる。
- ・子どもは幼稚園で夢中になって遊ぶ経験をしている。
- ・子どもは幼稚園で身近な自然(草花・虫・砂・水など)に触れたり、興味をもったりしている。
- ・子どもは幼稚園で、感情経験(笑う・怒る・困る・悲しむなど)を豊かにしている。
- ・子どもは幼稚園で体を動かして遊ぶことを楽しんでいる。
- ・幼稚園教職員は笑顔で挨拶をしている。・幼稚園は、季節を感じられる栽培活動に取り組んでいる。
- ・幼稚園は、子どもの思いや表現を、受け止めたり共感したりしてかかわっている。
- ・子どもは自分から進んで手洗いやうがいをしようとしている。

中間評価

各種指標結果

- ・臨時休業期間中の家庭との連絡を行い、子どもが園生活を楽しみにしたり、新しい生活習慣を園と家庭とが共通理解したりできるよう文書や動画などで伝えた。
- ・感染拡大防止の取組を行い、健康・安全・安心な園生活が送れるよう様々な活動の見直しを行いながら教育活動を行った。保護者にも園の方針を伝え、課題を共有しながら家庭と連携を図った。
- ・日々の保育を保育のねらいに基づき振り返り、子どもの姿をとらえ翌日、翌週の保育につなげるとともに、幼児理解を進めた。また、事例検討などを行い、担任だけでなく園全体で保育について話し合った。教育活動再開を喜ぶ一方、密にならない、換気、マスク着用など新しい生活習慣を常に見直しながらの保育だが、砂や水、絵の具など様々な素材に触れたり、飼育栽培活動を楽しんだりなど直接体験を通して子どもの心が動く工夫をしてきた。
- ・自粛生活や猛暑により戸外で体を動かす機会が少なかったが、9月以降園庭で走ったり体操したり、竹ぼっくりや一本歯げた、竹馬など自分なりのめあてをもって遊び、のびのび体を動かす楽しさや満足感や充実感を感じることができた。友達とのかかわりも広がりや深まりが見られる。

○アンケート結果(A そう思う B ややそう思う C あまりそう思わない D そう思わない)

- ・登園を喜ぶ(A79%B20%C1%D0%)・夢中からの心の育ち(A99%B1%C0%D0%)
- ・夢中に遊んでいる(A91%B8%C0%D0%無1%)
- ・身近な自然への興味(A91%B7%C1%D0%無1%)・豊かな感情経験(A75%B24%C1%D0%無1%)・体を動かして遊ぶ(A93%B5%C1%D0%無1%)
- ・教職員が笑顔で挨拶(A94%B5%C1%D0%)・季節を感じる栽培活動(A96%B4%C0%D0%)
- ・思いや表現の受け止め(A92%B7%C0%D0%無1%)
- ・自ら手洗い(A69%B29%C2%D0%)(\*うがいは感染拡大防止対策として推奨しなかったためアンケートから削除)
- ・休業期間中の取組(A74%B24%C0%D0%)

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・教育活動再開後、子どもたちが登園を喜ぶ姿が見られた。動画の配布や配信や、家庭での働きかけもあり園児も保護者も園再開を待っていたことが伺え成果が見られた。
- ・感染拡大防止策を行いながら、子どもにとって必要な経験が十分に行えているのか週案を基に振

	<p>り返り、事例検討により幼児理解や課題をより明確にできた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭や広場を活用し、思い切り走ったり、虫捕りや草花を摘んで自然を感じたり、砂を増やした砂場で、子どもたちが夢中になって遊んだりして、満足感や達成感などを味わう姿が増えてきた。アンケートから「夢中」の重要度は高い。満足度は高評価とはいえる改善の余地はある。さらに園内の環境を活用し子どもたちの「夢中」を支えたい。</li> <li>・「密を避ける」とこと、友達とのかかわりの両立が難しい場面がある。今後も場面に応じたより良い方法を考えていきたい。</li> <li>・幼稚園は直接体験を重視し「感じる心」を育てることを大切にしているところは変わらないが、ICTの有効な活用を引き続き模索したい。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染拡大防止の取組をしながらも、子どもの育ちに必要な豊かな経験ができるよう、身近な自然を意識した取組を行う（栽培活動・園外保育・食育活動など）</li> <li>・子どもの「夢中」をとらえ、援助していく。保護者にもわかりやすく発信していきたい。</li> </ul>
	<p><b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染拡大防止の取組を行いながら、子どもに必要な経験ができているか、週案の振り返りや事例検討を行う。</li> </ul>
学校 関 係 者 評 価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・砂を補充したことによる砂遊びの充実は大事だ。小学校でも泥団子を作っている本園卒園児を見る。直接体験を大事にしている保育を今後も継続してほしい。また、保護者に保育で大事にしていることを短い言葉で伝えることで園が大事にしているポイントが伝わると思う。</li> <li>・3歳児が落ち着いた姿は、家庭の教育力や動画配信のこともあると思うが、感染症対策としていつもより約束や規制がある生活が影響しているのか。ハンカチの扱いなど生活力がつくことは子どもの活動が広がることになる。今年度の取り組んだことを振り返り、何が課題かも考えていきながら、子どもにとって良かったことは継続すればよい。</li> </ul>

## 最終評価

	<p><b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・週案や事例検討・園内自然環境マップ作成などから、幼児理解を深め、子どもの「夢中」につながる活動の展開につながることができた。</li> <li>・園内での樹木・果樹の収穫や秋冬の栽培活動に取り組み、子どもは自然の恵みに喜び、砂や風や氷雪に不思議さを感じながら遊びに取り入れたり様々な試しを行ったりする姿が見られた。砂場道具の工夫をしたこと、砂遊びをより楽しむ姿が見られた。</li> <li>・少しでも気温が暖かい日には砂場や戸外での活動を好んで行う姿や広場の端まで行動範囲が広がる様子が見られ活発に行動する様子が見られた。</li> <li>・保護者に降園時の担任の話や園だよりやHPを通じて、子どもが心を動かした姿を発信した。園内展、生活発表会の一部動画配信など新たな取組を行ったが、HPでの発信も今後充実を図りたい。</li> <li>・アンケートでは子どもの育ちについての項目は全体として高評価なもの、ややAからB評価に若干数移行している傾向がある。家庭と園、保護者と教職員のつながりの部分（挨拶）では若干A評価数値が上昇した。</li> <li>・新しい生活習慣が定着しつつあるが、自ら手洗いの項目ではA評価が下がっている。</li> </ul> <p>○アンケート結果(A そう思う B ややそう思う C あまりそう思わない D そう思わない)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・登園を喜ぶ(A76% B21% C3% D0%)</li> <li>・夢中からの心の育ち(A98% B2% C0% D0%)</li> <li>・夢中に遊んでいる(A86% B14% C0% D0%)</li> </ul>
--	--

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身边な自然への興味(A86%B14%C0%D0%)・豊かな感情経験(A80%B20%C1%D0%)</li> <li>・体を動かして遊ぶ(A88%B11%C1%D0%)</li> <li>・教職員が笑顔で挨拶(A91%B9%C1%D0%) ・季節を感じる栽培活動(A91%B9%C0%D0)</li> <li>・思いや表現の受け止め(A90%B10%C0%D0%) ・自ら手洗い(A53%B39%C1%D0%無7%)</li> </ul>
自己評価	<p><b>分析（成果と課題）, 重点目標の達成状況, 次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・冬の風や氷雪など冷たさを忘れて遊び, 不思議さを感じる姿があった。が, アンケートで自然への興味の項目や体を動かして遊ぶ項目の A が若干低い。春夏と異なり, 虫も植物も休眠中の秋冬は, 目に見え手に残る自然物が少ないとあると思われる。また, 戸外での活動(マラソン・凧揚げなど)も好んで取り組み冬季も活発に体を動かして遊んだが, 緊急事態宣言による参観中止等も影響して保護者には子どもの様子や育ちが実感しにくかったと考えられる。今後は秋冬ならではの自然に興味がもてる一層の工夫と, 子どもが感じていることを保護者に分かりやすく発信する。</li> <li>・後期, 友達とのかかわりも広がりや深まりが見られる中で互いに影響しあいながら遊ぶ姿が見られた。異年齢交流の行事は実施できなかったが, 園庭や砂場, ホールなど場を共有する場で遊びのヒントをキャッチながら自らの遊びに取り入れていた。</li> <li>・新たな生活様式が定着しつつあるものの, 冬季, 水の冷たさなどから手洗いを「自ら」行うことに対する抵抗感や、「慣れ」による気の緩みもある。今一度感染症対策が大事であることを日々の保育や保健指導の機会に丁寧に子どもに伝える取り組みを行う。</li> <li>・アンケート結果全般において高評価であるものの, 前期と比較し A 評価から B 評価に若干数移行している。前期は臨時休業明けにより待ち待った園生活だったが, 後期は毎日の園生活と共に感染症対策, 緊急事態宣言などで活動の制限があったこと等が背景にあると考えられる。</li> </ul>
	<p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自然は常に変化する。その時しか享受できない自然を子どもが体験できるように, 自然の変化に柔軟に対応し保育に取り入れる準備や教材研究をしっかりと行う。</li> <li>・保護者に園生活や子どもの姿や育ちを具体的に伝える工夫をする。</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染症対策は感染状況や緊急事態宣言により市教委からガイドラインが示され, 園での感染症対策が決定されるということを保護者に明確に伝えると, 保護者も理解し見通しを持つことができるのではないか。また, みづば幼稚園だからこそできた感染症対策(パーテーションを開けた保育室環境や広い遊戯室の活用など)や教育活動は本園の強みでもある。広く発信していくべき。</li> <li>・保護者アンケートでの高評価は喜ばしい。わずかな C 評価の要因を分析し一人一人を大事にする教育実践を今後も続けてほしい。保護者も素直な気持ちをアンケートに記しているだろう。子どもも保護者もありのままを素直に表している, 安心して過ごせる幼稚園とも言える。</li> <li>・どのように保護者に子どもの育ちを伝えるか難しい中, 新たな取組に挑戦している。次年度 Wi-Fi 環境が整えばさらに発信しやすいだろう。今後の ICT 活用に期待する。</li> </ul>

## (2) 幼小連携・接続に関して

<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねらいを意識し, 健康面に配慮した小学校との年間交流計画の作成。交流活動の事前・事後の話し合いの充実。</li> <li>・接続期カリキュラムの実施と振り返りによる改善。</li> <li>・近隣の小中学校への交流と保育公開。授業参観・合同研修へ参加し, 広い視野から「幼児期に育みたい</li> </ul>
---

資質・能力」「学びに向かう力」の理解を深める。

- ・絵本の楽しさを親子で共有できるよう、新着絵本やクラスで読んだ絵本を保護者に伝える。
- ・「親子で絵本！」を活用した家庭との連携。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・小学校との交流での子どもの姿から、交流活動や年間計画を振り返る。
- ・小学校と円滑な接続についての意見交換や、交流活動の互いのねらいについて振り返る。
- ・絵本貸出冊数の月間の推移状況と「親子で絵本！」の活用状況の把握。

保護者アンケート：

- ・幼稚園の絵本貸出や月刊絵本は、親子で絵本に親しむ場やきっかけになっている。
- ・地域の小学校や中学校を知ったり、交流活動をしたりすることは、子どもの心の育ちにつながる。
- ・幼稚園は地域の小中学校のことを子どもに伝えたり交流活動を行ったりして子どもが関心を持つように取り組んでいる。
- ・子どもは地域の小中学校のことを知ったり、児童や生徒に关心や親しみをもったりするようになってきた。

中間評価

各種指標結果

- ・感染拡大防止のため小学校との直接交流はできず年間計画を見直すことになった。小学校のことを知る手段として、学校内を撮影し、園内で校舎探訪として動画を見る試みを行った。
- ・小学校との円滑な接続について小学校教員と意見交換を行った。
- ・園再開後7月からえほん室開放 絵本貸し出し冊数(えほん室開放再開後)7月 9月
- ・「親子で絵本」活用状況:毎月1度幼稚園へほぼ全員が提出 1冊目(100冊)終了12人
- アンケート結果(A そう思う B ややそう思う C あまりそう思わない D そう思わない)
  - ・絵本貸出や月刊絵本(A85% B15% C0% D0%)
  - ・交流活動での心の育ち(A81% B17% C1% D0% 無1%)
  - ・小中学校のことの伝達・交流(A59% B35% C4% D0% 無2%)

(直接交流を行っていないため「小中学校を知る・親しみをもつ」項目はアンケートから削除)

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・感染拡大防止のため小学校の校舎内風景や授業の風景を動画撮影し年長児が視聴し、小学校生活を垣間見ることができた。直接交流ではない新たな幼小接続の形を模索しながら、小学校進学への見通しや期待を持てるように取り組みたい。
- ・幼小互いの教育や円滑な接続について率直に意見交換を行い、小学校へつなぐため、より一人一人の育ちを把握し、育ちが小学校へつながるようにしたい。
- ・幼稚園再開後えほん室開放も7月から行った。夏季休業期間中も人数は少なかったが親子での来室があり絵本に親しむ環境の必要性を感じる。感染拡大防止をしながら園児が絵本に親しむ機会を今後も大事にしたい。
- ・「親子で絵本」活用の個人差はあるが、2冊目以降に入っている家庭もある。必要を感じないという保護者意見もあるが、絵本にふれる機会を促す取り組みであることを伝えたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・小学校生活に期待持てるよう写真や動画を用いて紹介し、聞きたいことを小学校に尋ねる取組をする。・鉛筆の持ち方や、箸の持ち方、筆圧など個の実態を丁寧にみとる。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・小学校との連絡回数
- ・鉛筆や箸の持ち方などの個々の育ちの振り返り

学校 関 係 者 評 価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・えほん室での直接ふれあいを含む読み聞かせは感染対策として今後もしばらく控える。</li> <li>・1年生が来園する機会がなく、様子を見に行く機会もない。小学校入学後の様子を知る機会として現状では難しいが、次年度2年生になるが来園する機会をつくりたい。</li> </ul>
-----------------------------	--

#### 最終評価

	<p><b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校との連絡:2回 幼稚園教育と小学校教育につながる部分について協議した</li> <li>・5歳児の保育の中で三角鉛筆や色鉛筆など様々な描画材料を用いた。筆圧などから、個に応じて持ち方などの指導を行うことを繰り返した。</li> </ul> <p>○アンケート結果(A そう思う B ややそう思う C あまりそう思わない D そう思わない)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本貸出や月刊絵本(A84%B14%C0%D0%)</li> <li>・交流活動での心の育ち(A69%B26%C1%D0%無4%)</li> <li>・小中学校のことの伝達・交流(A50%B37%C8%D0%無5%)</li> </ul> <p>(直接交流を行っていないため「小中学校を知る・親しみをもつ」項目はアンケートから削除)</p>
自己 評 価	<p><b>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・描画活動での筆圧や道具の持ち方を見とり、個に応じて援助してきた。今後も様々な活動の中で手指をしっかりと使うことを意識し取り組んでいきたい。</li> <li>・前期より絵本貸出冊数は増加しているが個人により偏りが大きい。今年度は感染症対策もあり園舎内に保護者が立ち入りにくいところがあったが、今後は親子での絵本貸出に意欲がもてるよう働きかけえほん室利用を増やしたい。</li> <li>・子どもたちの進学への期待が膨らむよう、小学校の話題を丁寧に取り上げるなど行うことで、子どもたちの気持ちは高まった。しかし、直接交流できない中、小学校との連絡が十分ではなく取組への工夫が必要だった。</li> </ul> <p><b>分析を踏まえた取組の改善</b></p> <p>次年度は年間計画を具体的にできるよう連絡をとり、画像や動画などICTを活用した連携に取り組む。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p><b>学校関係者による意見・支援策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度幼稚園にもWi-Fi環境が整うのであれば、端末を活用した幼小連携など大いに進めるとよい。小学校が導入する動画アプリを幼稚園も導入できれば連携がスムーズになるのではないか。</li> <li>・給食交流ができなかったことは残念。次年度も難しいなら、ここにこそICTを活用してはどうか。</li> <li>・絵本ボランティアなど直接園児とかかわる活動は、感染を持ち込むのではないかとの心配からまだ難しいが、次年度の活動についてどのような工夫ができるか、検討していく。</li> </ul>

#### (3) 預かり保育に関して

	<p><b>具体的な取組</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・個々の興味に応じた遊びをゆったりと楽しめ、安心して心地よく過ごせる環境構成を行う。</li> <li>・担任と連携し、教育課程内の活動を連動した遊びや季節感のある活動内容を取り入れる。</li> <li>・早朝担当を含む預かり保育担当者と担任が連絡を密にとり、健康面など家庭との連携を図る。</li> </ul> <p><b>(取組結果を検証する) 各種指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもが安心して過ごし、遊べる環境構成であったか、週案の振り返りによる評価。</li> </ul>
--	--

- ・早朝を含む預かり保育担当者と担任による教育課程内の活動や家庭との連携の振り返り。

- ・学校運営協議会や地域との連携による活動への参加率。

#### 保護者アンケート

- ・なかよしタイム(早朝を含む)は子どもにとって安心して過ごせる場になっている。
- ・なかよしタイム(早朝を含む)では、子どもは好きな遊びや好きな玩具での遊びを楽しんでいる。
- ・なかよしタイム(早朝を含む)は保護者にとって子育ての支援となっている。
- ・なかよしタイム(早朝を含む)は異年齢の子どもと関わる機会になっている。

#### 中間評価

##### 各種指標結果

・休業中を含め感染拡大防止に努めながら預かり保育を実施。食事場面でパーテーションを設けたり離れて座ったりしたほか、共有の玩具の出し方や使用後の消毒などの工夫を行い、安心・健康・安全な保育に取り組んだ。

・家庭保育の協力を求めながらの実施であり例年より参加者は少ない時期もあったが、9月以降徐々に利用が増えている。早朝や長時間利用者が増えるなど預かり保育が必要な家庭が増えている。

・早朝を含む預かり保育担当者と担任が連携を取り合い、児童理解を深めた。早朝では子どもの興味に応じて朝の登園が楽しみになるよう活動を工夫した。担当者と担任、園と家庭の連絡・連携をとり、保護者や児童が安心感をもてるよう努めた。

・PTA や学校運営協議会の催しができない状況が続いた。絵本読み聞かせが一部再開。

○アンケート結果(A そう思う B ややそう思う C あまりそう思わない D そう思わない)

・預かり保育は子育て支援になっている(A92%B7% C0%D0%無 1%)

・預かり保育は必要(A87%B12% C0%D0%無 1%)

・預かり保育は安心の場(A80%B17% C0%D0%無 3%)

・異年齢との関わり(A86%B11% C0%D0%無 3%)

##### 自己評価

##### 分析（成果と課題）

・感染拡大防止のため、臨時休業中を含め前期前半は家庭での保育に協力をいただいた。前期後半は利用家庭が増えてきている。

・対策を行いながら異学年が一緒に過ごす場をつくることができた。預かり保育でつながりができる子ども同士が保育時間中にかかわりあい、活動が発展する様子が見られた。

・早朝預かり保育の体制が整い長時間利用者も含め少しづつ増えている。安心できる場、落ち着ける場づくりを引き続きしていく。

・今後風邪が流行る冬季、換気、手洗いなどの徹底を含め、感染拡大防止対策を行っていく

##### 分析を踏まえた取組の改善

・利用家庭数が増えてきている。感染拡大防止対策を今後も引き続き行いながら、安心な預かり保育の場をつくっていく

・早朝・長時間利用の家庭との連絡を丁寧に行うよう、園として担任・預かり保育担当者が連携をとって取り組む。

##### (最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

・参加人数の多い場合の密にならない遊び場の工夫 ・気温が低くなった季節のこまめな換気

・担任と預かり保育担当者との連絡連携を振り返る

学校 関係 者 評 価	<b>学校関係者による意見・支援策</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早朝預かり保育の利用が徐々に増えているので実施できてよかった。年度当初は休業期間もあり十分に広報できなかったが、今後は早朝預かり保育のことを大いに周知していってほしい。地域でも園の取組を知らせていく。</li> <li>・絵本読み聞かせが一部再開している。異学年が集い楽しめる場を提供したいが、健康安全面を考慮し、今年度は昨年度まで行ってきたイベント的な活動は控える。</li> </ul>

#### 最終評価

	<b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加人数により机を増やし離して配置する工夫を行った。特にマフラーづくりは人が集まりやすいため学年ごとに参加するよう工夫した。・冬場も室温に気をつけながら十分に換気を行った。</li> <li>・長時間預かり保育で降園時に担任と出会わない家庭に、クラスの様子を伝えるボードを玄関ホールに配置した。</li> <li>・預かり保育1降園時に担任と担当が保護者への連絡を丁寧に確認しあった。また、子どもの様子で気が付いたことを伝え合った。</li> </ul> <p>預かり保育は子育て支援になっている(A90% B9% C0% D0% 無1%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・預かり保育は必要(A87% B12% C0% D0% 無1%)</li> <li>・預かり保育は安心の場(A75% B21% C2% D0% 無2%)</li> <li>・異年齢との関わり(A84% B11% C4% D0% 無1%)</li> </ul>

自己 評 価	<b>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急事態宣言発出中も預かり保育を行ったが、自主的に参加を控える家庭もあり、預かり保育参加者が急増し、密になることは少なかった。子どもの興味のある玩具などは机も多めに用いて配置し、分散して遊べる場つくることで、子どもたちもゆったり過ごすことができた。マフラーづくりも学年別にすることで5歳児だけでなく4歳児も一人一人丁寧に取り組むことができた。</li> <li>・16時以降、全学年のボードを玄関ホールに置き、保護者に確認してもらうことや、健康安全面を中心にはじめ、子どもの健康安全面以外も、子どもの姿を伝え合うことで幼児理解が深まり、翌日の保育につなげることも少しずつできてきた。次年度はさらに伝え合う工夫をしていきたい。</li> </ul>

#### 分析を踏まえた取組の改善

- ・担当者と担任との情報共有のため、出席確認表に連絡事項を記載する欄を設ける。

学校 関係 者 評 価	<b>学校関係者による意見・支援策</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早朝預かり保育や長時間預かり保育の利用実人数が増えていることは喜ばしい。コロナ禍の中、預かり保育による家庭の支援は必要である。子どもも教職員も健康に気を付けて取り組んでほしい。</li> <li>・今年度運営協議会として預かり保育充実の活動が実施できなかった。次年度も感染拡大の状況を見てできることを工夫していきたい。</li> </ul>

#### (4) 子育ての支援に関して

	<b>具体的な取組</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人懇談会・クラス懇談会・登降園時を活用した家庭とのきめ細かな連絡・連携を行う。</li> <li>・ほっこり子育てひろばを開き、保護者同士が、子育てのことを気軽に話せる場をつくる。</li> <li>・教育相談(うさぎ組・ひよこ組)を開設し、健康面に配慮しながら、子どもと保護者が安心して好きな遊びを十分に楽しむ場を提供する。また、子育ての喜びや不安を話せる場を作る。</li> </ul>

- ・HP やチラシなどで、地域や地域の小規模保育事業所への教育相談活動の発信。
- ・うさぎ組では、徐々に園生活を体験できる取り組みを行う。(幼稚園ならではの素材での遊び・栽培活動・靴の脱ぎ履きやトイレ体験・弁当体験など)

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・日々の保護者との連絡・連携の振り返りと改善
- ・クラス懇談会への参加率
- ・ほっこり子育てひろばの実施回数と参加率
- ・教育相談活動の振り返りと、子育ての悩みなど相談内容や件数の把握
- ・教育相談活動の発信(チラシ配布・HP掲載)回数

保護者アンケート

- ・幼稚園の教職員に、子どものことや子育ての悩みなどについて話したり相談したりしやすい。
- ・幼稚園は子どもの姿や教育活動を日々の連絡や園だより、HP などで保護者や地域に伝えたり発信したりしている。
- ・幼稚園の教育相談は地域の子育て支援に必要だ。

未就園児保護者アンケート

- ・幼稚園の教育相談を知ったきっかけは(HP・地域回覧・園掲示物その他)
- ・幼稚園の教育相談は、子育てに役立っている。

中間評価

各種指標結果

- ・休業期間中は家庭訪問や電話連絡などで家庭とのつながりを意識した取組を行ってきた。
- ・人が集う懇談会やほっこり子育て広場はコロナ感染の状況を鑑み前期は開催していない。
- ・幼稚園再開後の教育相談は感染拡大防止対策を行いながら徐々に再開している。多数が参加する行事は参加申し込み型とし、参加者を把握した。地域小規模保育所との連絡は繋いでいるが実際の交流は行っていない。
- ・教育相談活動の発信:地域へのチラシ配布、HP 掲載は休業期間中を含め毎月実施。

○アンケート結果(A そう思う B ややそう思う C あまりそう思わない D そう思わない)

- ・教職員相談(A75%B22%C1%D0%無 2%)・教育活動発信(A86%B12% C0%D0%無 2%)・教育相談の必要性(A84%B13% C0%D0%無 3%)

臨時休業中の教材・動画配信など家庭保育支援(A74%B12% C0%D0%)

未就園児保護者アンケート

- ・教育相談などみつば幼稚園を知ったきっかけ(複数回答可)以前から知っていた:16 人から:6 他の子育て支援施設(広報紙含む):4 HP:3 地域回覧:2 知人:2

自己評価

分析 (成果と課題)

- ・再開後保護者との接触機会が減り、連絡連携が取りにくい中、新しい生活様式や行事の見直しなど保護者への丁寧な説明をすることで子育てへの不安感が軽減できるよう努めた。
- ・子育ての悩みや喜びを話す場を設けられなかつたが個別の相談には積極的に応じた。今後も家庭との連携を図るためにも保護者が気軽に教職員に相談できるよう努めたい。
- ・臨時休業期間中の幼稚園から家庭への取組(教材配布・動画配信・エールプロジェクトなど)により家庭で過ごす支援について AB 評価で100%と高評価であった。今後も様々な形で子育ての支援を行っていきたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・感染症対策を行ったうえでの懇談会(クラス・個人)やほっこり子育てひろばの開催

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・懇談会やほっこり子育て広場の開催数と参加者、および個別の相談</li> </ul>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マスク着用の日々の中で、教職員が笑顔で挨拶をしていると保護者が感じてくれていることが嬉しい。信頼される幼稚園であるよう、今後も家庭との信頼関係を継続していってほしい。</li> </ul>

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冬季の感染者数増加と緊急事態宣言により、ほっこり子育て広場は開かなかった。教育相談は園庭開放を中心に行い集う内容は実施を見送った。</li> <li>・在園児の懇談会は感染症対策を行って短時間の実施となった。</li> </ul> <p>○アンケート結果(A そう思う B ややそう思う C あまりそう思わない D そう思わない)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員相談(A81%B19%C0%D0%)・教育活動発信(A85%B15% C0%D0%)・教育相談の必要性(A84%B15% C1%D0%)</li> </ul>
	未就園児保護者アンケート
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談などみつば幼稚園を知ったきっかけ(複数回答可)以前から知っていた:11 人から:2 他の子育て支援施設(広報紙含む):2 地域回覧:3 HP:3 園の掲示板:2 その他:3 (在園児兄姉)</li> <li>・教育相談は子育ての役にたっているか とても:15 役立っている4 あまり:0 役立っていない0</li> </ul>
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍において、地域で子どもが安心して過ごす場としての教育相談や園庭開放は、在園児だけでなく地域の未就園児家庭にも子育て支援として必要とされている。しかし、在園児、未就園児ともほっこり子育て広場など子育てのことを気軽に話し合う場を設けられなかった。園庭開放の時間に少人数での情報交換の場となつたが、保護者同士がつながる懇談会がないことの不安を抱く声が保護者から聞かれた。今後、在園児保護者・未就園児保護者において、感染症対策を行いながら子育ての話をする場を工夫しながら行いたい。</li> <li>・新たにみつば幼稚園を知るきっかけとして地域回覧チラシや HP がある。今後も地道に教育相談など子育て支援を行っていることを地域に発信していく。</li> </ul> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・感染が収束している時期での少人数によるほっこり子育て広場の開催</li> <li>・感染症対策を行いながら、状況に応じた教育相談の実施</li> </ul>
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園行事の変更や園での子どもの様子の発信などを分かりやすく保護者に伝えることも大事だが、保護者側も園からの情報を受け止め理解する姿勢や力をつけることが必要だ。</li> <li>・地域の子育て家庭を支援する役割を、今後もしっかりと担っていってほしい。園の教育相談の取組を発信する地域へのチラシ配布を引き続き協力する。</li> </ul>

## (5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）について

	具体的な取組
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・隣接する特養施設との交流(訪問・手紙を渡すなど)通し、高齢者へ気持ちを寄せる活動を行う。</li> <li>・地域の交通安全活動にかかわる人を知り、安心安全な地域づくりの活動が行われていることを知る。</li> </ul>

- ・小・中学校との連携や交流や、学校運営協議会やPTAと連携した地域との活動(お茶会・もちつきなど)と、地域行事(ふれあい広場など)の案内や参加呼びかけ。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・特養施設との交流の内容や子どもの姿からの振り返りと評価
- ・学校運営協議会やPTAと連携した行事や、地域行事などから、子どもの姿や内容改善についての振り返りと評価。また、地域の幼稚園教育活動への意見
- ・小中学校への行事参加や子どもの姿の振り返りと評価

保護者アンケート

- ・隣接する特養との交流は子どもの心の育ちにつながっている。
- ・幼稚園や学校運営協議会、PTAが、地域と連携した活動(絵本ボランティア・夕涼み会・もちつき・お茶会など)は、子どもの経験を豊かにしている。
- ・地域の交通安全活動(自転車安全運転啓発)があることを知っている。

中間評価

各種指標結果

- ・特養施設と直接交流ができない中、花壇の植栽活動により、子どもの気持ちを繋ぐ取組を行った。
- ・学校運営協議会やPTAと連携した行事(夕涼み会・地域のふれあい広場など)や、地域の交通安全活動など、地域との諸行事が中止となり、様々な人との交流ができない状況であった。
- ・中学校体育祭参加代替えとして園児の体操動画を中学校に渡し、中学校家庭科との連携を図った。  
アンケート結果(A そう思う B ややそう思う C あまりそう思わない D そう思わない)  
 直接交流の機会がなくなったため、アンケート項目を大きく変更  
 ・隣接する特養との交流は心の育ちにつながっている(A65% B31% C0% D0% 無 3%)

自己評価

分析(成果と課題)

- ・感染拡大防止の観点から多くの人の交流ができない中ではあったが、特養とのつながりや中学校家庭科との連携を模索しつつ取り組んだ。しかし、昨年度交流経験のある年長児にとどまっている。他学年にどのように伝えるかが課題。
- ・地域との諸行事がなく、地域とのつながりが希薄になっている。園の周囲を散歩しながら清掃する活動を年長児が一度行った。今後も子どもたちが地域を意識できる活動を考えたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・隣接高齢者施設(特養)とのかかわりの工夫
- ・各学年が地域を意識できる活動の工夫
- ・中学校家庭科との今後の連携の工夫

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・特養の花壇の花植え活動の継続など保育の中で特養の方々の存在に気付く工夫
- ・地域への散歩や清掃活動など園外保育の工夫
- ・中学校との交流の中で、動画や写真などを用いるなど、子どもたちが身近に感じられる工夫

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・地域も行事が中止になるなど子どもたちの経験の場が少なく、小中との直接交流ができないなかで、特養花壇の取組など工夫により新たな取組がなされていることを今後も続けてほしい。
- ・地域と取り組んできた餅つきやお茶会について開催は難しいこともあるが、地域の取組の状況を園に伝え、園の考えを今後も伝え、地域と幼稚園を繋ぐよう役割を担う。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
・地域との直接交流ができない中、特養花壇への花植えを行った。中学校とは体育大会で踊る予定だった体操動画を送り、その返事として家庭科で作成した手作り絵本を受け取った。直接交流ではないがお礼のメッセージをつくるなどしながら、つながりを感じることができた。	
・地域女性会とのお茶会なども緊急事態宣言下において中止となるなど子どもが地域を感じるための工夫がなかなか実行できない状態であった。	
○アンケート結果(A そう思う B ややそう思う C あまりそう思わない D そう思わない)	
・隣接する特養との交流は心の育ちにつながっている(A69% B24% C1% D0% 無6%)	
自己評価	<p>分析(成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <p>アンケートでのAB評価は大きく変わらないが直接交流ができない状況に無回答も複数あった。感染状況に対応する中、園外とのつながりを子どもが感じられる取組や発信の課題が残った。直接交流できない現状は次年度も大きくは変わらない。ICTの活用を含め、園外と園内を繋ぐことを保育の中でどのように取り入れていくのか、教職員が積極的に意識して取り組む。</p>
学校関係者評価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>・年間計画にICT活用した交流や連携を明記し、週案にも反映し計画的に取り組むようにする。</p> <p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>・中学校家庭科での交流が直接ではなくとも、動画や手作り絵本の交換ができたことは、中学生にとってもプラスだ。</p> <p>・地域行事そのものがなくなってしまい、子どもが地域行事に参加する機会も減っている。次年度の地域行事の情報を常に幼稚園に伝えながら、共に子どもたちにとって良い体験ができるばをつくっていきたい。</p>

## (5) 教職員の働き方改革について

重点目標
笑顔で元気に教育活動を行うために翌日に疲れを残さない働き方を一人一人が意識する
具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> <li>効率的な職員会議: 終了時刻を設定して会議を始める。案件は事前に各担当がまとめ回覧しておく。</li> <li>業務共有ボードを活用し、業務を見る化し、校務支援員や他の教職員と連携した業務遂行を行う。</li> <li>時間を意識した業務遂行: 退勤時間を周知し、各々が業務にかかる時間の見通しと優先順位をつけ退勤時間を意識する。</li> </ul>
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> <li>会議の効率化が図れたか振り返る。</li> <li>校務支援員をはじめ、教職員間で連携のとれた業務ができたか、偏りがないか振り返る。</li> <li>残業時間の前年比</li> </ul>

## 中間評価

各種指標結果
・臨時休業中、在宅勤務を行う中で新たな取組などを共有するため取組をボードに書き可視化することで業務がスムーズに進んだ。
・保育後の消毒作業など全教職員で取り組んだ。校務支援員の勤務時間が増えたことで事務的作業や消毒作業がはかどった。今後も業務が偏らないよう連絡協力していく。
・休業期間中、残業時間、昨年比40~50%減。教育活動再開後は昨年比8~10%減

自己評価	<b>分析（成果と課題）</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・休業期間中は大幅に残業時間が減った。教育活動再開後は昨年より若干減っているだけである。消毒など今年度からの取組もあるが、校務支援員配置もある。時間の有効活用に努めたい。</li> <li>・臨時休業中は在宅勤務を活用しながら家庭との連携連絡を図るため、教職員間での情報の共有を工夫して行い、若手教員の情報活用力を生かし動画配信など新たな取組を行えた。初めての在宅勤務では仕事の計画・進捗・報告状況について工夫の余地がある。業務を可視化する意識をもって取り組みたい。</li> <li>・コロナ対応による様々な行事の見直し、資料作成などに時間がかかる。出張などリモートで行われることによる移動時間軽減を生かしながら決まった時間を有効に活用したい。</li> </ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい生活様式を踏まえた後期の行事の在り方の見通しをもって取り組み、新たな取組に必要な業務を可視化しながら進める。</li> <li>・リモートや動画作成など幼稚園における ITC 化を模索しながら各教職員が業務を効率よく進められるようそのスキルを学ぶ。</li> </ul>
学校関係者評価	<p><b>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</b></p> <p>・業務可視化ボードの活用頻度、工夫      •TV 会議や ZOOM の活用頻度</p>

#### 最終評価

	<b>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・感染拡大の状況に対応するための情報共有(欠席者の把握・PCR 受験者への対応・行事の見直しなど)を職員朝礼や文書回覧(データ共有・紙文書回覧)など業務や情報を可視化し全教職員と隨時共有しながら取り組んだ。特に勤務開始直後から現場に入る教職員には情報伝達用のノートを活用することで、情報の理解・共有ができた。</li> <li>・後期はまなび支援員や非常勤講師が配置され、アルコールも入手可能となり消毒作業が軽減された。</li> <li>・他園や他機関との研修や打ち合わせなどは TV 会議を活用して取り組んだ。出張などはほぼ TV 会議となったため、移動時間の削減となった。    •残業時間(10月以降)昨年比10~25%減</li> </ul>	

自己評価	<b>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消毒作業が次第に軽減されたことで、保育後の業務に取り掛かりやすくなつた。</li> <li>・出勤時間や勤務時間が教職員によって異なるため、情報共有を可視化することで意識が高まつた。今後も継続する。</li> <li>・前年に比較し残業時間は縮減されたが、月45時間以下にならない現状もある。保育の質・活動の充実を図ることと、効率的な業務推進の両立を図ることが課題である。</li> </ul>
	<b>分析を踏まえた取組の改善</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度も会議の効率化を図るため、資料の事前読み込みを行う。</li> <li>・教職員への情報共有を図るため、業務を可視化する。(ボード、情報伝達ノートの活用)</li> <li>・定時を意識し、業務を効率的に進める意識をさらに高めるとともに、保護者にも働き方改革の取組を発信するため、職員室に働き方改革の取組を大きく掲示する。</li> </ul>

学校関係者による意見・支援策

- ・若い教職員もいる中で、教材研究や翌日の準備を行うことも大事である。効率的な仕事の進め方を身につけていってほしい。
- ・若い教員をはじめ、zoomなどの便利な機能を活かし、働き方改革をすすめてほしい。